

《第4回 広島県地域保健対策協議会 保健医療基本問題検討委員会》
議事録

- 1 日 時 令和4年3月24日(木) 19:30~20:30
- 2 場 所 広島県医師会館2階201会議室
- 3 参加者 別紙出席者名簿のとおり
- 4 内 容

開会・挨拶

松村委員長:広島では桜が開花し、本格的に春が到来しているが、国内外では厳しい冬が続いている。また、新型コロナウイルス感染者数も広島、そして東京でも増加傾向にあり、再拡大が懸念されている。北朝鮮のミサイル、そしてウクライナへの侵攻から約一カ月が経過するなど、非常に厳しい情勢となっているが、本日我々は、広島県医療の最大の課題である高度医療・人材供給拠点について、取りまとめを行いたいと考えている。

これまで、官学民が一体となりオール広島で議論を重ね、拠点が目指す姿、期待される役割、高度医療・人材供給機能について議論をいただいた。

本日は拠点とその他の医療機関との機能分化や連携のあり方、そして拠点の病床規模、建設候補地などについて最終的な合意を頂き、委員会としての取りまとめを行う。ぜひ幅広い観点から忌憚のない積極的な意見をいただきたい。

報告事項(1) 高度医療・人材育成拠点(仮称)の整備に関する県民意見への対応について

報告事項(2) 最新医療に関する県民公開セミナーについて

事務局より、「高度医療・人材育成拠点(仮称)の整備に関する県民意見への対応」(資料1)、「最新医療に関する県民公開セミナー」(資料2)について報告があった。

(意見なし)

松村委員長:事務局からの説明について意見が無いようであれば続いて拠点ビジョンの検討について事務局から説明をお願いします。

協議事項 拠点ビジョンの検討（目指す姿の実現に向けた方針）

事務局から、「高度医療・人材育成拠点（仮称）」における目指す姿の実現に向けた方針について、説明があった。

（説明要旨）

- ・これまで使用していた「高度医療・人材供給拠点」という名称について、「供給」の部分を「育成」に変更し、「高度医療・人材育成拠点」としてはどうか。そしてあくまでもコンセプト的な名称ではあるが、サブタイトルとして「みんなの病院構想」という文言を入れてはどうか。
- ・県民に高い水準の医療を提供し、県全体の医師確保および交流を行う拠点として、急性期医療を中心に提供する病院が必要であると考えている。
- ・新病院の規模については、症例の集積、そして医師を惹きつけるだけのインパクトがある病床数として、1,000床程度が必要ではないか。
- ・上記病床数を確保するための建築面積、交通の利便性、南海トラフ地震への対応などの観点から、広島市東区二葉の里を建設候補地としてはどうか。
- ・運営形態については柔軟で機動力のある業務執行体制を検討する必要があるのではないか。
- ・政策医療を担う県立広島病院と交通利便性の高い場所に位置する JR 広島 病院の統合による、新病院の整備を検討してはどうか。
- ・地域の医療機関全体で切れ目のない医療を提供する「地域完結型医療」を実現するためには、新病院のみならず他医療機関と医療機能の分化・連携を進めていく必要があるのではないか。そのために、「拠点ビジョン推進会議」を設置し、議論を深めてはどうか。

松村委員長：論点を整理するために、まずは新病院の名称、規模、建設候補地、運営形態についてご意見を頂きたい。

木内委員：みんなの病院という名称は良いと思うが、英語の場合はどのような名称になるのか。今後は海外からの患者も増えてくるため、そういった観点も必要ではないか。

齊藤委員：病院の名称は正式なものではなく、あくまでも計画を進めていく上でのコンセプトとして示すものである。今後さらなる検討を進めて、正式な名称を決めていきたい。

栗井委員：「みんなの病院構想」には基本的には賛成である。建設候補地について、二葉の里と現在の県立病院が建っている場所が示されている。二葉の里は JR 広島病院が既にあるが、新病院として現状の JR 広島病院の建物を一部活用するのか、それとも 1,000床の病院を全く新たに作っていくのか？

齊藤委員：その点は、今後の検討事項だと認識している。いくつかのパターンが考えられると思うが、継続して議論をしていきたい。

檜谷委員：同じく東区二葉の里に位置する広島県医師会館を建てる際に、浸水等の被害想定があったように記憶しているが、今回の資料では浸水被害がないように見受けられる。

齊藤委員：南海トラフ地震による津波被害はないと想定している。ただし、太田川を含めた河川の氾濫による浸水想定はある。広島市内のほとんどの地域が河川の氾濫時に浸水想定があるものと認識している。

檜谷委員：みんなの病院という名称について、誰でも参加しても良いというような、県民に対して誤解を受けやすいものだと感じた。官学民オール広島構想を目指しての病院というニュアンスを感じられる名称の方が良いのではないかと思う。参考意見として申し上げた。

齊藤委員：今後の議論をしていく中で、県民のみなさんにも幅広く参画していただきたいという思いを込めて、このような名称をつけた。そのため、親しみやすい柔らかい名称となっている。

松村委員長：次に医療機関の機能分化、連携の検討についてのご意見、質問はあるか？

(意見なし)

松村委員長：次に拠点ビジョン推進会議について何か意見はあるか？

(意見なし)

松村委員長：それでは総論、各論交えて、委員の皆さんに意見をお伺いしたい。

木内委員：病院が大きければ、それだけで若い医師が集まるのかどうか疑問はあるが、総論としては賛成だ。

栗井委員：資料にある、機能分化・連携を進めていく病院として、いくつかの病院の名前が挙がっているが、JR 広島病院と県立広島病院以外は、単に連携するだけなのか、それともこれらの病院の中にも、今後、統合される病院がありうるのか。そうした点を明示しなければ、最終的にどのような病院になるのかイメージしづらい部分がある。

齊藤委員：その点については、まさに拠点ビジョン推進会議において機能分化・連携について議論を進めていきたい。

伊藤委員：大変すばらしい構想だと思う。供給という言葉ではなく、育成という言葉を使うようになった点も、非常に良いと思う。

岡山県には1,000床規模の病院があるが、広島県にはない。より多くの医師が集まるような、受け皿を作っていきたい。どういった人材をターゲットにして集めていくかを次のステップで考えていきたい。

檜谷委員：長年考えてきた構想において、具体的な第一歩を踏み出そうとしている。非常にありがたいことであり、これまで苦勞されてきた方々におめでとうございますと言いたい。少し気になるのは、交通の問題。広島市内のどこに作ってもついて回る問題であり、都市計画の面で、広島市、広島県との強力な支援が必要だろう。

阪谷委員：現時点での拠点ビジョンについて、異論はない。1点気になるのは、今後この構想を打ち出した時に、現在の県立病院の周辺の住民の方々がどのように思うかということ。当然反対する意見もあるだろう。そうし

た時に、広島県だけが対応するのではなく、地対協の構成メンバーである、広島県医師会、広島大学病院などがしっかりと拠点ビジョンに賛成の意を示して、医療関係者の総意で方向性を決めたのだと、しっかりとバックアップしていくべきだ。そうしないと、立ち上げたビジョンが倒れてしまう。広島市としてもビジョンの実現に力を注いでいきたいと考えており、皆さんのバックアップがあって、はじめてこのビジョンが成し遂げられると考えている。

拠点ビジョン推進会議では、さらに議論が深められていくものだと思っているが、その会議で決められたことが、みなさんの総意であるということで、全員が責任を持って取り組んでいく必要があるものだと感じている。是非皆さんと一緒に力を合わせて取り組んでいきたい。

影本委員：今回は本当に具体的なプランを示してもらっている。我々も(地方公営企業法の)全部適用から、独立行政法人となったが、柔軟な運営ができるようになったので、新病院でも検討していただければと考えている。

候補地として交通の利便性の面で考えると、二葉の里が良いと思うが、安佐市民病院では交通網の整備が今後の課題となっている。新病院でも交通網の整備はぜひ考えた方がよい。

また、安佐市民病院の移転について、病院周辺に住んでいる方々からの反対はかなり強いものがあつた。新病院でも同じようなことは起こるだろうと考えられるだけに、対応をしっかりと議論していった方がよい。

古川委員：1,000床というインパクトは非常に大きい。先日、倉敷中央病院の院長が、医師の働き方改革に関して、1つの診療科で15名ぐらい医師がいないと、まともな改革ができないとおっしゃっていた。そういうことを考えると、1,000床ぐらいの規模が必要なのだと思う。ただし、1,000床となると、ガバナンスの面で難しい部分が出てくる。赤十字グループでも、そういった部分での課題が出てきており、新病院ではガバナンスをどのようにしていくか検討が必要だ。

また以前から申し上げている通り、人口15~20万人ぐらいの都市であれば500床ぐらいの病院が複数あって良いと考えている。そうした点を考えると、大きな新病院が一つあれば良いということではなく、病院群の連携を深化させていくことが重要なのだと考えている。

松村委員長：委員の追加の発言がないようならば、新拠点ビジョンについてはこれまでの意見を踏まえて修正を行った上で、本委員会に取りまとめていきたい。取りまとめた修正後のビジョン内容は情報の取扱いに注意が必要のため、委員長である私に一任いただければと思う。

(異議なし)

松村委員長：それでは最後に広島県参与の浅原委員より一言お願いしたい。

浅原委員：これまで本当に大勢の方に時間をかけてご意見を伺ってきた。当初から申し上げているように、広島都市圏の救急、小児医療は、高齢化と少子化の進展の中で、多くの課題を抱えている。そして中山間地域の医療にも課題がある。それらのさまざまな課題を視野に、全県的な取組となる拠点ビジョンの検討を、これまで積み重ねてきた。

委員の皆様には建設的な議論をいただいた。今後も関係者の方々と議論を重ねながら、20～30年先の未来を見据えてこの構想をさらに進めていかなければならないと考えている。広島大学病院、広島県医師会、広島市医師会、関係医療機関等々から、大変心強い支援をいただいたことについて、厚く御礼を申し上げたい。今後も作業は続いていくが、この構想を少しでもレベルの高いものにして、医療提供体制をつくっていきたいと考えている。引き続き御協力をお願いしたい。

以上